

厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」
(H26-精神-一般-009) 研究分担者)
および
高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業
支援拠点機関等全国連絡協議会

平成 26 年度東北ブロック事業報告

研究分担者・東北ブロック統括
東北大学大学院医学系研究科
高次脳機能障害学分野 教授 森悦朗

【平成 26 年度東北ブロック活動方針と実績】

1. 支援拠点機関の設置推進と支援ネットワーク運用
 - ▶ 拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議（年度内 2 回）の開催。（第一回 平成 26 年 11 月 30 日 仙台国際センター、第二回 平成 27 年 1 月 23 日 宮城県庁 7 階保健福祉部会議室）
 - ▶ 高次脳機能障害の啓発と高次脳機能障害者への支援普及の推進を目的に、東北ブロックシンポジウムを宮城県仙台市にて開催。
平成 26 年 11 月 30 日（日）9：30-13：20 仙台国際センター 橋
（第 38 回日本高次脳機能障害学会の市民公開シンポジウムとして）
208 名の参加。詳細は報告書参照。
 - ▶ 東北ブロックの支援体制の均括化、および各県内での支援体制の均括化を図る。各県の支援拠点機関の充実と拠点機関拡充のための患者の評価と支援のあり方をさらに検討。
各県の報告書参照。
2. 医師向けセミナー「行動神経学 夏の学校 2014」の開催について。平成 26 年 8 月 2 日（土）、3 日（日）の二日間に渡り、宮城県蔵王町遠刈田温泉ラフォーレ蔵王にて若手医師を対象に高次脳機能障害の診断医養成のためのセミナーを開催し、27 名が参加した。
3. 外傷性脳損傷に対する画像検査法の開発。他機関と共同で東北大学を中心に実施中。

【平成 26 年度 東北ブロック会議】

第一回 平成 26 年 11 月 30 日 13：30-15：00 仙台市国際センター 小会議室 8
主任研究者 中島八十一先生 ブロック統括長 森悦朗
参加自治体 青森県 秋田県 岩手県 山形県 福島県 宮城県
各県担当者と支援コーディネーター 支援拠点機関の担当医師など 合計 27 名
議事

- 1) 東北ブロックシンポジウムの開催について

- 2) 各県の高次脳機能障害者支援の取り組みおよび現状報告
- 3) 東北ブロックの今後の取り組みについて：研究事業終了に伴う今後の会議の在り方について、次回の会議まで意見を募ることとし、また次回のブロック会議で確認したい他県の取り組みについても併せてメール等で意見を募ることとした。
- 4) その他連絡事項
 次回のブロック会議について
 平成 26 年 1 月 23 日（金）13:30～宮城県庁 7 階 保健福祉部会議室

第二回 平成 27 年 1 月 23 日 14:30-16:30 宮城県庁 7 階 保健福祉部会議室

ブロック統括長 森悦朗 参加自治体 青森県 秋田県 岩手県 山形県 福島県 宮城県
 各県担当者と支援コーディネーター 合計 22 名

議事

- 1) 医師向けセミナー「行動神経学夏の学校 2014」報告書参照
- 2) 平成 26 年度東北ブロックシンポジウム開催報告
- 3) 各県の高次脳機能障害者支援の取り組みおよび現状報告
 ・各県の予算体制、高次脳機能障害者の実態把握の方法、各県での支援体制の均てん化の取り組み、支援マップの活用についても報告された。
- 4) 東北ブロックとしての今後の取り組みについて（ブロック会議の開催を含めて）
 ・東北ブロックとしての活動については、今後も情報交換と情報共有を進めて、東北地区の均てん化を進めていく必要がある。
 ・他県での取り組みを参考にするためにもこのような会議の場が必要。
 ・県を超えた患者の受け入れがあるので、情報交換は必要。
 ・但し、会議開催のための金銭を含めた根拠がないので、任意の開催の際にだれがどのように参加者を招集し会議を運営していくのか、検討を要する。
 これらの要望や問題点について、以下のような意見が出された。
 ① 6 月に国リハで開催される、連絡協議会の後に参加者で意見交換するのはどうか。
 ② 各県持ち回りで会議を開催するのか、その際には事務局も持ち回りとするのはどうか。
 ③ 今回の全国連絡協議会での他ブロックの見解を確認し、参考にする。
 ④ 全国連絡協議会では、ブロックの活動の根拠がなくなることで、地域格差の是正がさらに困難となる可能性があるのではないかと、意見を出すべきではないか。
- 5) その他連絡事項
 ・平成 27 年 2 月 15 日（日）に福島県の事業として講演会とシンポジウムを予定。
 ・平成 27 年 2 月 19 日（木）の支援コーディネーター会議、および 20 日（金）の連絡協議会開催についての確認。
 ・今年度および詳細が決まるまでは事務局として東北薬科大学病院の目黒が各県開催の講演会等の情報のとりまとめと配信を行っていく。

【平成 26 年度東北ブロックシンポジウム報告】

厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」平成 26 年度東北ブロックシンポジウム「高次脳機能障害者の臨床と支援のあゆみ」
第 38 回日本高次脳機能障害学会市民公開シンポジウムとして開催

厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」
東北ブロック統括 森 悦朗
(東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学分野 教授)

記

1. 実施日：平成 26 年 11 月 30 日（日）
2. 実施場所：仙台市国際センター 〒980 - 0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地
3. 主催：厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」東北ブロック
4. 後援：宮城県 青森県 秋田県 岩手県 山形県 福島県 仙台市
5. 対象：高次脳機能障害者にかかわる医療・福祉・教育・行政機関担当者 高次脳機能障害当事者 および当事者家族 一般市民
6. 参加者数：208 名 （東北 6 県 148 名 東北 6 県以外 60 名 北海道～鹿児島）
7. 目的：東北各県の高次脳機能障害の啓発と高次脳機能障害者への支援普及の推進
8. 内容：講演とシンポジウム
9. 参加費：無料
10. アンケート集計結果
11. その他：当日配布したパンフレット

*これまで平成 20 年の仙台を皮切りに、高次脳機能障害の理解と支援の啓発を目的として毎年東北各県でシンポジウムを開催してきたが、今年度は研究事業最終年度でもあり、第 38 回日本高次脳機能障害学会（学会長 森悦朗教授）の市民公開シンポジウムということで再び仙台での開催の運びとなった。このため全国からの参加者が多く、また作業療法士や言語聴覚士など専門職の参加が多く、総勢 208 名の参加があった。

講演とシンポジウム、国および宮城県の取り組みについての二部構成で開催し、第一部は高次脳機能障害の臨床に携わる神経内科医（山形大学 丹治和世先生）、リハビリテーション科医（山形病院 豊岡志保先生）、精神科医（京都大学 上田敬太先生）の講演と、中島八十一先生を含めたシンポジウム、第二部は国の施策について中島八十一先生の講演と、宮城県からは支援マップおよび連携パスの活用について、宮城県リハビリテーション支援センターの渡邊美恵先生、民間支援サポート団体どんまいネット宮城代表の遠藤実先生による講演であった。

アンケートの集計より、参加者からは参考になったなど、おおむね好評を博したが、もう少し広く開催のアナウンスが欲しかったという意見も出され、広報の方法など周知不足が反省点である。

開催プログラム

開会のあいさつ

主催者挨拶 東北大学医学系研究科高次機能障害学分野 教授 森 悦朗先生
(厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業 東北ブロック統括責任者)
開催県後援代表者 祝辞 村井嘉浩様 (宮城県保健福祉部長 伊東 昭代様 代読)

第一部 「高次脳機能障害の臨床」 9:35-11:50

座長 東北大学高次機能障害学分野教授 森 悦朗

神経内科医から診た高次脳機能障害 9:40-10:10

山形大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学講座准教授 丹治和世先生

リハビリテーション科医から診た高次脳機能障害 10:13-10:43

国立病院機構山形病院 山形県高次脳機能障がい者支援センター長 豊岡志保先生

精神科医から診た高次脳機能障害 10:45-11:15

京都大学大学院医学系研究科脳病態生理学講座精神医学

京都大学医学部附属病院 精神科・神経科 助教 上田敬太先生

パネルディスカッション 11:20-11:50

第二部 「高次脳機能障害の社会的対応」 12:00 -13:15

座長 学校法人東北薬科大学病院 リハビリテーション科主任部長 渡邊裕志先生

高次脳機能障害支援普及事業の歩みと展望 12:00-12:30

国立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能障害情報・支援センター長 中島八十一先生

宮城県高次脳機能障害支援普及事業-高次脳機能障害地域連携パスの活用について 12:33-12:53

宮城県リハビリテーション支援センター 高次脳機能障害支援コーディネーター 渡邊美恵先生

どんまいネットみやぎの活動 12:55-13:15

宮城高次脳機能障害連絡協議会・どんまいネットみやぎ代表

仙台厚生病院名誉院長 遠藤実先生

閉会のあいさつ 13:15-13:20 宮城県リハビリテーションセンター支援センター長 樫本修先生

開催実行委員長 森悦朗 (東北ブロック統括責任者)

事務局：学校法人 東北薬科大学病院 言語心理部 目黒 祐子

e-mail: y-meg@hosp.tohoku-pharm.ac.jp

平成 26 年度東北ブロックシンポジウム アンケート結果

●参加人数：208名

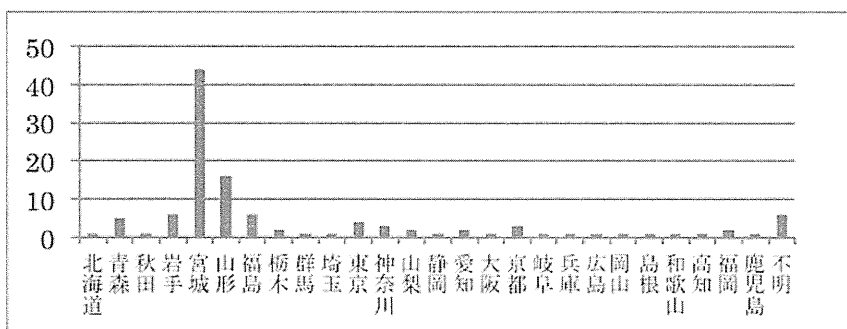
●アンケート回収数：115名 回収率：55.2%

1 所属機関

(1) 県内・県外の別

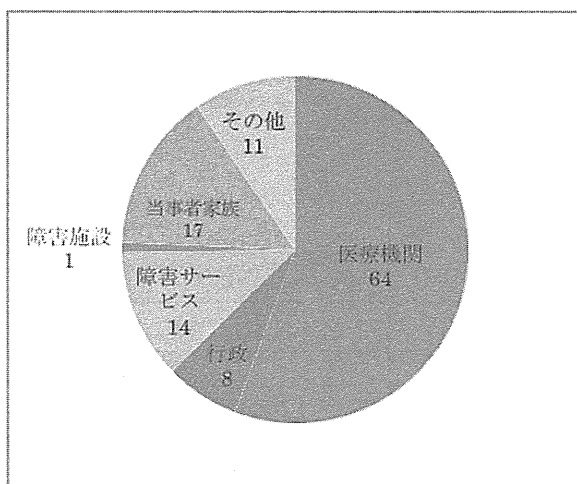
●県内：44名 ●県外：71名

(地域別内訳)

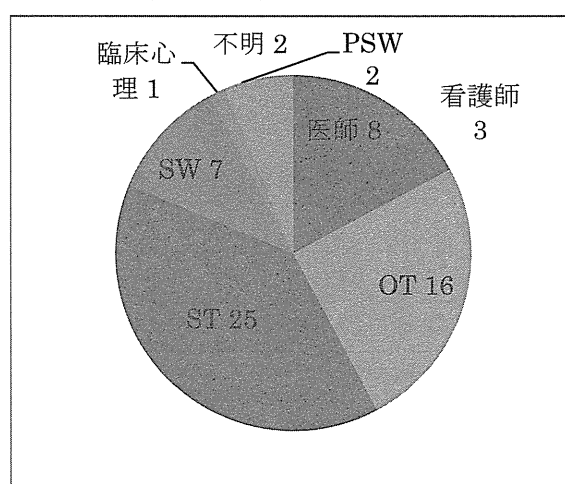


(2) 所属機関

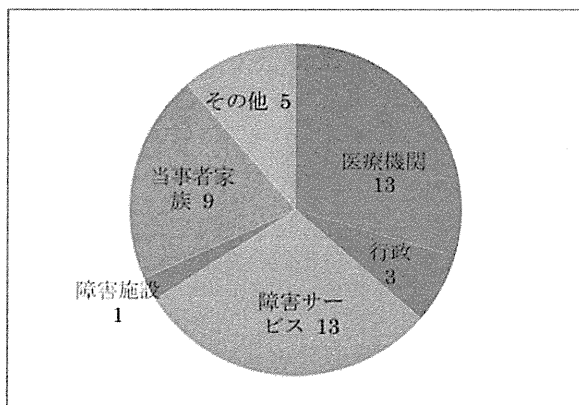
●所属 (全体)



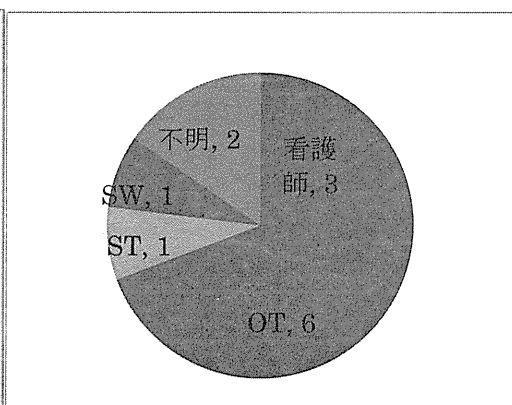
●医療機関の内訳 (全体)



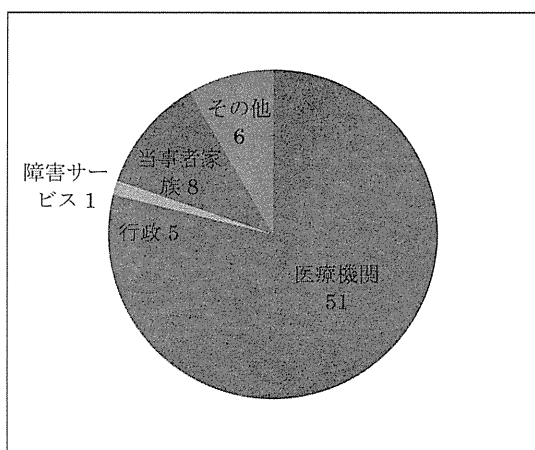
●所属（県内）



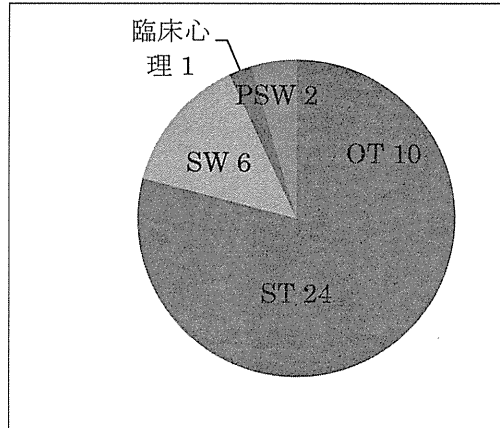
●医療機関の内訳（県内）



●所属（県外）



●医療機関の内訳（県外）



2 高次脳機能障害について知っているか

	県内	県外	合計
実際に関わっている	31名 (70.4%)	66名 (92.9%)	97名 (84.3%)
知っているが関わっていない	1名 (2.2%)	2名 (2.8%)	3名 (2.6%)
名称を聞いたことがある	6名 (13.6%)	1名 (1.4%)	7名 (6.0%)
初めて聞いた	5名 (11.3%)	1名 (1.4%)	6名 (5.2%)
無回答	1名 (2.2%)	1名 (1.4%)	2名 (1.7%)
合計	44名 (100%)	71名 (100%)	155名 (100%)

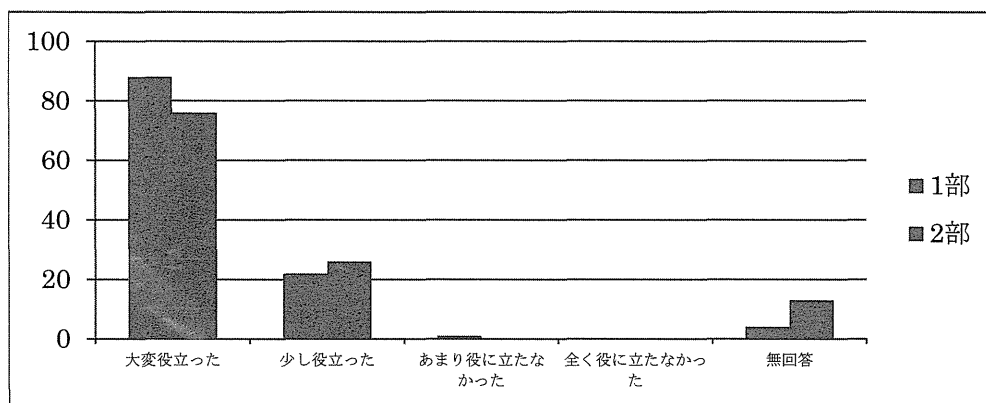
3 内容について

第1部

	(県内)	(県外)	(全体)
大変役に立った	34名	54名	88名 (76.5%)
少し役に立った	8名	14名	22名 (19.1)
あまり	0名	1名	1名 (0.8%)
全く	0名	0名	0名
無回答	2名	2名	4名 (3.4%)

第2部

	(県内)	(県外)	(全体)
大変役に立った	29名	47名	76名 (66%)
少し役に立った	12名	14名	26名 (22.6%)
あまり	0名	0名	0名
全く	0名	0名	0名
無回答	3名	10名	13名 (11.3%)



●第一部感想

(県内)

- ・主人と同じ症状でした。しかし本人がどこまで理解してくれるのかを知りました。ただ、家族はその時にそういう対応をしたらよいのかについても聞きたかったです。
- ・各分野の先生方からご意見を聞くことができ多面的な知識を得られたと感じます。
- ・地域により高次脳機能障害の疾病教育が実施されていると思いますが充実しているかどうかは違うと思いました。地域で悩んでいる方にとって情報の有無により家族の対応、本人の生活が変わってくると感じました。
- ・現在の医師の状況を知れてよかったです。
- ・支援者としてある程度の医学的知識が求められることを再認識した。

- ・専門的知識を得ることができ今後の支援に役立つものとなりました。
- ・上田先生の精神科医からの説明は参考になった。
- ・医師の高次脳機能障害への認知度が低いことに驚きました。
- ・リハ職として自分の患者さんへ応用できることもあり参考になった。
- ・アプローチの方向や各機関における特徴があり参考になった。
- ・精神科医とリハ医のそれぞれの立場について多少理解できた。
- ・高次脳機能障害に対する医療や社会の認知・現実を知ることが出来て参考になった。
- ・各診療科からのそれぞれでの視点からの話が非常におもしろかった。

(県外)

- ・豊岡先生の「障害を得たことは能力の一つ」実感しています。
- ・当事者と周囲の認識の差を埋められるようにしてほしいです。
- ・同じ医師でも科によってとらえ方が違うことに驚いた。
- ・全国的なレベルの向上をお願いしたい。
- ・上田先生の病識の理解について本人と家族と一緒に受けることが大切と聞き、勤務先でもどのようにすると良いのか前向きに検討していきたいです。
- ・診断に関する理解が深まりました。
- ・当事者の声、症状に対する支援方法について参考になった。
- ・診療に携わる医師も高次脳機能障害の認識に課題があることがわかりました。
- ・上田先生のお話がとても参考になりました。
- ・医師への啓発の必要性を感じた。
- ・診断→治療→生活と展開される際の様々な課題や実際の取り組みについて知ることができた。

●第二部感想

(県内)

- ・今後地域連携パスというものが必要になってくるかもしれない。まだまだ知らないサービスがあり、一人で悩まずに外に目を向け家族も頑張ろうと思った。
- ・県内での各種取り組みについて何うことができて大変参考になった。
- ・地域連携パスについて分かってよかったです。どんまいネットの活動が聞けてよかったです。
- ・宮城県の進み方、相談先についてわかった。
- ・パスの運用について検討したい。
- ・県内のある社会資源を知ることができ大変参考になった。
- ・宮城県の現状がわかりよかった。
- ・地域連携パスの中に就労支援機関も含めていただきたい。
- ・地域で高次脳機能障害に対する活動が分かり大変興味を持った。
- ・三位一体の連携の重要性を感じました。
- ・今まで聞いたことの無かった新たな取り組みや事業を知ることが出来、もっと調べて身内の支援に活かしていきたいです。

- ・高次脳機能障害に対して宮城県での活動について聞き様々な場所で活動していることが分かりとてもよかったです。

- ・地域連携パスがもっと普及するとよいと思います。

(県外)

- ・ピアカウンセリングに興味があります。

- ・宮城県の高次脳機能障害支援マップ，連携パスは人口の多い東京都でも活用できるのではないかと思った。

- ・山形県でも同じような活動をしてほしい。

- ・宮城県の地域連携パスの動きは参考になった

- ・就労支援の内容大変参考になりました。

- ・自分の県についてもう一度見直してみたいと思います。

- ・宮城県は進んでいるなど率直に感じました。

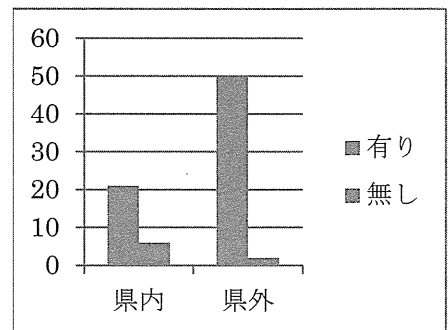
- ・宮城県のネットワーク作りが参考になりました。

- ・連携パスについてもっと具体的に知りたかった。

- ・中島先生の講演がとてもわかりやすかったです。

4 【支援者】高次脳機能障害の相談を受けた経験の有無

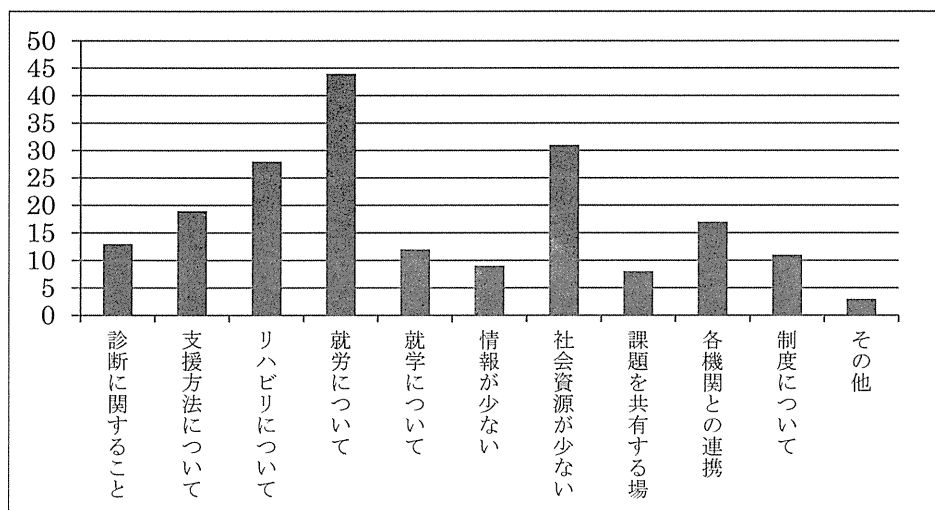
	県内	県外	全体
相談経験有	21名	50名	71名
相談経験無	6名	2名	8名



●相談の中で困難を感じていること

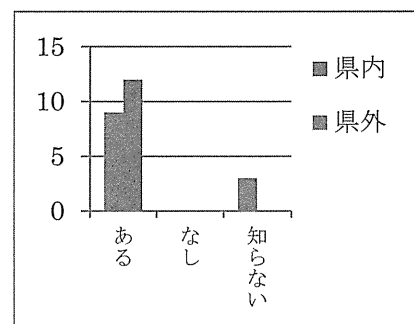
	県内	県外	全体
診断に関すること	5名	8名	13名
支援方法について	5名	14名	19名
リハビリについて	7名	21名	28名
就労について	14名	30名	44名
就学について	1名	11名	12名
情報が少ない	5名	4名	9名
社会資源が少ない	5名	26名	31名
課題を共有する場	2名	6名	8名
各機関との連携	3名	14名	17名
制度について	2名	9名	11名
その他	0名	3名	3名

- ※その他 ・自分のスキル不足で適切に相談に回答できないこと
 ・家族への対応について



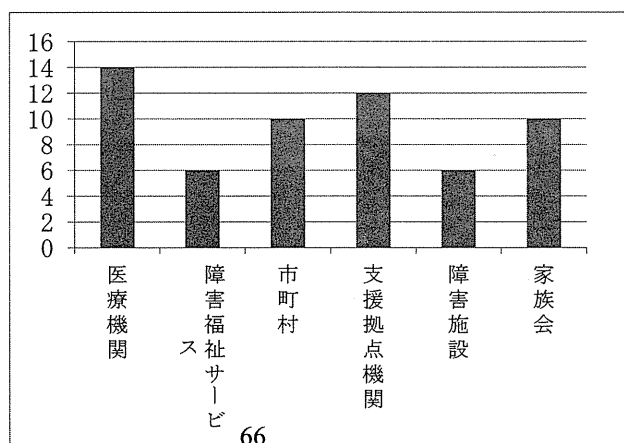
5 【当事者・家族】高次脳機能障害のことを相談できる機関の有無

	県内	県外	全体
ある	9名	12名	21名
なし	0名	0名	0名
知らない	3名	0名	3名



●相談できる場所はどこですか

	県内	県外	全体
医療機関	4名	10名	14名
障害福祉サービス	3名	3名	6名
市町村	5名	5名	10名
支援拠点機関	6名	6名	12名
障害施設	3名	3名	6名
家族会	5名	5名	10名

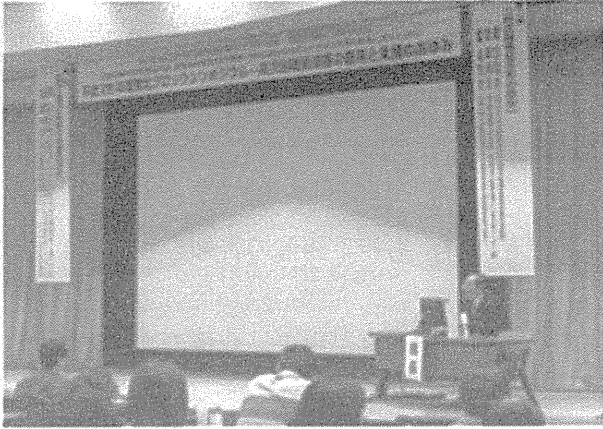


6 要望・意見

(県内)

- ・質問したいことはあ

ったが何をどのよ



【医師向けセミナー「行動神経学 夏の学校2014」報告】

今年度で3回目となる若手医師のための行動神経学セミナーを平成26年8月2日(土)、3日(日)の二日間に渡り、宮城県蔵王町遠刈田温泉ラフォーレ蔵王で開催し、27名が参加した。

二日間ほぼ缶詰状態で、行動神経学の基礎から認知・行動障害の薬理まで、集中的に学習する場を設けた。

宮城県以外では関東・東海・近畿・四国・九州の全国各地から参加した。参加した医師の診療科は神経内科、精神科、リハビリテーション科、老年内科、内科となっており、今年は研修医も4名参加していた。参加者からは非常に充実した内容で、日頃の臨床で困っていることなどもざっくばらんに相談できる良い機会だったと好評を得た。

東北6県では宮城県以外の参加がほとんどないので、東北地区の若手の医師に対して、セミナーの開催を案内し、東北六県の参加者を増やしたいと考えている。

次年度以降は本研究事業の補助がなくなるので、当教室単独主催にならざるを得ないが、毎年参加希望者が増加していることから、教室主催で高次脳機能障害を診療できる若手医師の育成は今後も継続したいと考えている。

平成27年度は8月22日(土)、23日(日) 宮城県蔵王町遠刈田温泉ラフォーレ蔵王で開催予定。参加希望についてはfacebookや教室に直接問い合わせをお願いしたい。



日時 2014年8月2日(土)10時30分
～8月3日(日)16時00分

場所 ラフォーレ蔵王

主催
東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学
厚生労働省科学研究費補助金
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

日程

8月2日(土)		
10:30 - 11:30	行動神経学総論	森
11:30 - 13:00	視空間・注意の障害	鈴木
*** 昼休み ***		
14:00 - 15:00	大脳半球の左右差・脳変位	鈴木
15:00 - 16:30	視覚の障害・失認	平山
*** 休憩 ***		
16:40 - 17:40	記憶の障害・健忘	西尾
17:40 - 19:10	行為の障害・失行	平山
*** 懇親会 ***		
8月3日(日)		
8:00 - 9:00	前頭葉機能障害	森
9:00 - 10:00	認知症	松田
*** 休憩 ***		
10:10 - 11:10	言語の障害・失語症①	飯塚
11:10 - 12:10	機能解剖	飯塚
*** 休憩 ***		
13:00 - 14:00	言語の障害・失語症②	松田
14:00 - 15:00	行動異常・精神症状	西尾
15:00 - 16:00	認知・行動障害の薬理	森
*** 終了後 解散 ***		

講師：森 悦朗(東北大高次脳機能障害科)
鈴木 匡子(山形大高次脳機能科)
平山 和美(山形保健医療大作業療法学科)
松田 実(東北大高次脳機能障害科)
飯塚 統(東北大高次脳機能障害科)
西尾 慶之(東北大高次脳機能障害科)



連絡先
東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学 西尾まで
(電話) 022-717-7358 (FAX) 022-717-7360
(メール) bncr.med.tohoku@gmail.com
(フェイス・ブック) <https://www.facebook.com/TOHOKUKOUJI>

【各県における取り組み（平成26年4月～平成27年3月31日までの集計）】

<青森県>

支援拠点機関名 一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）医療相談員 1名・言語聴覚士 1名

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話	33	件
来院／来所	255	件
メール・書簡	8	件
その他（訪問・出張・同行等）	5	件

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話	114	件
来院／来所	7	件
メール・書簡	25	件
その他（訪問・出張・同行等）	14	件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など）

- 拠点機関検討委員会 1回 参加者：14名
- 院内スタッフ会議 12回(月1回程度) 参加者：毎回10名前後
- 青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会（2014/9/20） 参加者：75名
- 家族会交流会 6回 参加者：16名、16名、10名、10名、10名、24名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・
交流会相談会・ケース会議など）

- 平成26年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会（2014/6/25～2014/6/27） 参加者：2名
- 平成26年度東北ブロック会議 参加者：2名（2014/11/30） 1名（2015/1/30）

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

- ホームページの更新
- 支援情報マップ入力データまとめ（県内施設連絡先など）

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

- 八戸圏域ネットワーク構築のため病院訪問（2014/6/20）
- 下北圏域ネットワーク構築のため病院訪問（2014/12/5）

診断評価・リハビリテーションなど

- 外来での診断、評価、診断書作成等
- 入院でのリハビリテーション
- 電話相談の対応・情報提供

その他の支援活動

- 家族会への支援
 - ・事務局への支援
 - ・家族会企画会議への参加（2014/5/17）（2015/1/19）（2015/3/29）
 - ・アップルメイト連絡会議への参加（2014/5/17）（2014/11/20）（2015/1/19）（2015/2/21）
 - ・青森市失語症友の会へ同行（2014/9/28）
 - ・地元FMラジオ放送にコーディネーターと家族会代表者が出演（2015/3/30）

<秋田県>

支援拠点機関名 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

支援コーディネーター（職種） 2名(作業療法士1名 精神保健福祉士1名)

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話	47件
来院／来所	9件
メール・書簡	3件
その他（訪問・出張・同行等）	件

機関・施設等からの間接相談のべ件数

電話	49件
来院／来所	5件
メール・書簡	10件
その他（訪問・出張・同行等）	2件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など）

◇ ケース会議(高次脳機能障害入院患者に対する院内カンファレンス) 85回 680人

◇ 高次脳機能障害講演会（日本損害保険協会助成）1回 82名

対象：当事者とその家族、医療・福祉・行政などの分野で高次脳機能障害に関わる方、高次脳機能障害に興味がある方

◇ 認知症・高次脳機能障害連携ネットワーク勉強会 2回 100名

（認知症疾患医療センターの開設に伴い、高次脳機能障害支援拠点機関の周知・活用の促進を目的に開催）

◇ 「大仙市医療・介護多種職連携の会」「あきた認知症・高次脳機能障害連携ネットワーク」合同研修

会 1 回 200 名

◇ 支援普及事業支援担当職員研修会 3 回 58 名

対象：行政、医療機関、相談事業所、就労関係事業所、地域包括支援センター等

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

◇ 平成 26 年度第 1 回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

◇ 平成 26 年度第 2 回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

◇ 平成 26 年度第 1 回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会

◇ 平成 26 年度第 2 回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会

◇ 平成 26 年度第 1 回秋田県高次脳機能障害支援事業相談支援ネットワーク委員会

◇ 平成 26 年度秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会(県北・中央・県南 3 ヶ所)

◇ 平成 26 年度宮城県高次脳機能障害支援事業専門研修会

◇ 平成 26 年度第 1 回東北ブロック会議及び東北ブロックシンポジウム

◇ 平成 26 年度第 2 回東北ブロック会議及び東北ブロックシンポジウム

◇ 家族会 3 回参加

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

◇ ウェブサイト

・秋田県ホームページ

・秋田高次脳機能障害相談・支援センターホームページ

秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会での質問事項を元にした Q&A とアンケート集計結果等を公開

◇ 平成 24 年度作成パンフレットの配布

・秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 外来待合室に設置

・高次脳機能障害講演会参加者に配布

・秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会にて配布

・秋田市障がい児者総合相談会会場に設置

診断評価・リハビリテーションなど

◇ 専門外来

◇ 入院、リハビリテーション

その他の支援活動

◇ 家族会支援（郵送物作成・送付、連絡調整、会報配布）

◇ 当事者会支援

・入会者募集の案内作成

・研修会「当事者のリハビリ 脳の疲れ(ストレスを癒やしたい)へ講師(臨床心理士)を派遣

<岩手県>

支援拠点機関名 いわてリハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）社会福祉士 2 名、臨床心理士 2 名

当事者／家族からの直接相談のべ件数（27 年 3 月末まで）

電話	139 件
来院／来所	400 件
メール・書簡	13 件
その他（訪問・出張・同行等）	17 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（27 年 3 月末まで）

電話	173 件
来院／来所	322 件
メール・書簡	31 件
その他（訪問・出張・同行等）	20 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会	4 回 77 人（連絡協議会、ワーキンググループ会議）
研修会・講習会	5 回 204 人（コーディネーター養成研修会、医師対象研修会、就学支援研修会等）
ケース会議	55 回 246 人
勉強会・研究会	0 回
家族会・交流会	7 回 57 人

※当事者を実行委員とした交流会を 1 回開催。

※脳外傷友の会イーハトーヴと共催で家族カフェを 6 回開催。

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・
交流会相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会	16 回 330 人（リハビリテーション広域支援センター会議等に出席）
研修会・講習会	6 回 520 人
ケース会議	0 回
勉強会・研究会	0 回
家族会・交流会	1 回 12 人（失語症友の会はまりやすびゃあ交流会に職員 1 名を派遣）

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

- ・平成 24 年度にパンフレット、支援マップを作成。
- ・平成 19 年度にホームページを開設。今年度一部リニューアル。
- ・平成 25 年度よりメールニュースの配信を開始。平成 26 年度は 11 号の配信を行った。

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

- ・平成 24 年度に医療・福祉の支援機関マップを作成。
- ・平成 25 年度に支援者向けの手引書を発刊予定。作成に向けて各支援機関を対象に調査を実施した。
- ・平成 26 年度は地域の医療機関及び福祉機関を対象に支援状況の調査を行った。

診断評価・リハビリテーションなど

- ・予約制で高次脳機能障害外来を実施している。
- ・外来リハビリは患者の状況に応じて週に 1～2 回程度行っている。

その他の支援活動

- ・高次脳機能障害支援ワーキンググループ会議のメンバーで「岩手県版こうじノート」を企画中。
- ・脳外傷友の会イーハトーヴと協働し、「リハセンべい」を作成、月1回院内販売を行っている。

<山形県>

支援拠点機関名

山形県高次脳機能障がい者支援センター (独立行政法人国立病院機構山形病院内)

山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター (庄内医療生活協同組合 鶴岡協立リハビリテーション病院内)

※ ◇は、山形県高次脳機能障がい者支援センター実施分

○は、山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター実施分

支援コーディネーター (職種) 社会福祉士

当事者／家族からの直接相談のべ件数 (27年度の3月31日まで)

電話	192件 (内訳・・・山形 122件、庄内 70件)
来院／来所	170件 (内訳・・・山形 128件、庄内 42件)
メール・書簡	24件 (内訳・・・山形 5件、庄内 19件)
その他 (訪問・出張・同行等)	12件 (内訳・・・山形 11件、庄内 1件)
計	398件 (内訳・・・山形 266件、庄内 132件)

機関・施設等からの間接相談のべ件数 (27年度の3月31日まで)

電話	178件 (内訳・・・山形 131件、庄内 47件)
来院／来所	16件 (内訳・・・山形 15件、庄内 1件)
メール・書簡	15件 (内訳・・・山形 3件、庄内 12件)
その他 (訪問・出張・同行等)	7件 (内訳・・・山形 7件、庄内 0件)
計	216件 (内訳・・・山形 156件、庄内 60件)

主催した会合・対象者・参加人数 (研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など)

◇第1回山形県高次脳機能障がい研修会 (H26.6.17)

内容：第一部 特別講演「事例から学ぶ高次脳機能障害」

第二部 1、「脳卒中の回復期リハビリにおける高次脳機能障がい者支援」

2、当センターの症例報告、通所教室「暁才」の紹介・発表

講師：山形大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学准教授 丹治和世氏

国立病院機構山形病院リハビリテーション科医長・当センター長 豊岡志保

当センターコーディネーター、通所教室スタッフ

対象：医療福祉関係者、参加人数：112名

◇巡回相談 (H. 26. 12. 8、H. 26. 12. 15)

最上地区 第1部 講演会

内容：「高次脳機能障害の基礎知識」

「高次脳機能障害者さまへの支援について」

講師：国立病院機構山形病院リハビリテーション科医長・当センター長 豊岡志保

新庄徳洲会病院 言語聴覚士 沼沢明日美氏

対象：医療・福祉関係者 参加人数：20名

見学：JuJu・マルシェ（就労継続支援A型）

置賜地区：三友堂病院地域医療部へご挨拶、パンフレット等置いていただけるようお願いをした。
米沢市立病院へご挨拶、今後のスタッフ同士の連携についてもお願いをした。

◇第2回山形県高次脳機能障がい研修会 (H27. 3. 4)

内容：第一部 講演「認知症と高次脳機能障害」

第二部 事例検討会・ワークショップ

講師：山形大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学助教 斎藤 尚宏氏

当センターコーディネーター

対象：医療福祉関係者、参加人数：110名

(NHK、TUYのTV取材を受け、放映された)

◇高次脳機能障がい者支援センター運営委員会 計6回 出席者：病院内スタッフ

◇ケース会議 8回開催 参加者：本人、家族、福祉関係者、就労関係者

○研修会 平成26年度山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター研修会 (H27. 2. 21)

対象者：医療・福祉・教育関係者、当事者・家族

内容：「高次脳機能障がいの基礎」

「高次脳機能障がいのある就学児童生徒の復学支援」

「高次脳機能障がい者の支援事業について」

参加人数：66名(うち院内職員 20名)

○家族会(茶話会)

対象者：当事者、家族

参加人数：H26. 4. 16 5名/H26. 6. 21 12名/H27. 1. 17 8名/H27. 3. 14 10名(いずれも院内スタッフ含む)

○ケース会議

対象者(参加者)：当事者、家族、障害者相談支援センター関係者、通所事業所関係者、企業関係者

参加人数：H26. 4. 4 8名(30代女性)/H26. 9. 8 5名(40代女性)/H27. 1. 14 8名(30代女性)

H27. 2. 25 8名(20代男性)/H27. 3. 19 6名(40代男性)(いずれも院内スタッフ含む)